

日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 畑中 久明 発行所 日本高齢期運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央 5-48-5 シャンポール中野 504 号
TEL/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com
<http://www.nihonkouren.jp>

No.355
発行 2022 年 10 月 1 日



10.1 新宿駅東口アルタ前

11月24日全体会記念講演

『ゴリラから学んだ多様性と共生が活かされる社会づくり』 総合地球環境学研究所に山極壽一所長を訪ねる

中央実行委員会・京都実行委員会



9月27日、京都実行委員会の山本和夫代表、藤原克東事務局長、畑中久明中央実行委員会事務局長が、総合地球環境学研究所(京都市)で山極壽一所長と懇談しました。大会リーフレットと「日本高齢者人権宣言(第3次草案)」 「ブッ

ケット」をお渡しし、今回の大会が長野大会の延期とオンライン開催を経ての久々の現地での大会であること、京都は第1回日本高齢者大会を開催した地であり、全国から大きな期待が寄せられていることなどを説明し、当日の講演への期待を伝えました。山極先生は高齢者の役割について自らの研究体験にも触れて、「ニホンザルやゴリラの調査で老境の存在が群れ同士の対立を解消し、平和を実現する、人間の社会でも高齢者が共存への大きな影響を与えているのではないかとお話しされました。大会当日は午後、北海道に行かれる予定ですが、時間の許す限り大会に協力いただけるようです。

第35回日本高齢者大会 in 京都 全体会開始時間変更

【2日目】11月24日(木)全体会の開始時間は10:00になりました。

1日目

	講座・分科会	講師・報告・ 助言者	肩書
第1講座	世界の高齢者との大交流会 ヨーロッパの年金者組合運動に学ぶ	イタリア代表 フランス代表 (コーディネーター) 唐鎌直義	
第2講座	「日本高齢者人権宣言」の学習・討議 日本高齢期運動連絡会のとりくみ	畑中久明	日本高齢期運動連絡会事務局長
	人権のあゆみと「日本高齢者人権宣言」の今日的意義	井上英夫	日本高齢者人権宣言起草委員会 座長 金沢大学名誉教授
	障害者人権宣言(仮称)	藤井克徳	日本障害者協議会代表・きょう されん専務理事
第3講座	ジェンダー平等社会へ		
	ジェンダー平等社会へケアを大事にする社会へ	岡野八代	同志社大学大学院グローバル・ スタディーズ研究科 教員
	子どもたちと生きてきた日本軍「慰安婦」と性と生	平井美津子	大阪府公立中学校教師。大阪大 学・立命館大学非常勤講師
第4講座	今こそ憲法を生かすとき 平和と民主主義		
	憲法を暮らしに生かす	高山佳奈子	京都大学教授
	憲法をめぐる現状とこれからを考える	奥野恒久	龍谷大学政策学部教授 憲法 学・人権論専攻
第5講座	コロナ・気候変動打開の運動と課題と今後の社会		
	「気候危機」に立ち向かおう！世界の動き 日本の課題 地域の取組み	浅岡美恵	気候ネットワーク代表・弁護士
	コロナ後を切り拓く社会に向けて	石川康宏	神戸女学院大学名誉教授
第1分科会	これからの社会保障の運動をどう進めるか？～全世代型社会保障とのたたかひの課題	(コーディネーター) 是枝一成	前 中央社会保障推進協議会事務局長
	社会保障の今と今後～歴史を踏まえ、課題を探る	横山壽一	佛教大学教授
	後期高齢者医療保険制度窓口負担2割化に係る取り組みの報告	伍 淑子	神奈川県高齢期運動連絡会事務局長
	生存権を守る取り組み	吉田 務	全日本年金者組合 副中央執行委員長
	介護問題と高齢者の人権	松田貴弘	京都民医連事務局長

第2分科会	高齢者の働き方と社会保障		
	「全世代型社会保障」政策と高齢者の就労	浜岡政好	佛教大学名誉教授
第3分科会	沖縄辺野古基地建設阻止のたたかいと基地闘争		
	辺野古の闘いと沖縄知事選挙のたたかい	瀬長和男	安保廃棄・沖縄県統一連 事務局長
	京丹後の米軍基地	永井友昭	京丹後市議会議員、米軍基地建設を憂う宇川有志の会
第4分科会	原発廃止、再稼働を許さない運動		
	日本の脱原発裁判と京都脱原発原告団	渡辺輝人	弁護士・原発訴訟弁護団
		吉田 明生	京都脱原発原告団・事務局長
原発推進・拡大路線はとても危険ーみんなで打ち破ろう	守田敏也	ジャーナリスト、京都「被爆二世・三世の会」世話人	
第5分科会	介護問題と介護保険制度のいま		
	介護保険制度の抜本的改革のためにー中央社保協「提言」(案)のポイント	林 泰則	全日本民主医療機関連合会事務局次長、中央社会保障推進協議会介護障害部会部員
第6分科会	高齢者の人権としての交通権		
	公共交通機関と高齢者の足確保	土居靖範	元立命館大学経営学部 教員
	全国の公共交通を守る取り組み交流		
第7分科会	高齢者の生きがいを語り合おう 若者ととともに	ファシリテーター 斎藤真緒	立命館大学産業社会学部 教授
	若者と高齢者が一緒に語り合えば・・・		
	お互いに生きがい・不安について語れば		
第8分科会	健康で丈夫で長生きするために		
	オーラルフレイル 大切な口の健康”心の出口、命の入り口”	小澤 力	大阪府歯科保険医協会理事長
第9分科会	メディアの現状をどうみるか		
	新聞業界のいま	日比野敏陽	
	テレビ業界、そしてラジオはいま	古住公義	民放労連 京都放送労働組合副委員長
移動分科会 1	山宣の足跡、そして平等院	宇治山宣会 (藪田)	
移動分科会 2	東京遷都後の京都の足跡～疎水事業、水力発電と電車	山口幸男 (シルバーガイド)	
夜の企画 18:00～ 20:00	夜の交流会教育文化センター (参加費：なし) 平和踊り 地元有志の出演 各地方参加者の出演		
	利き酒 (参加費：1000円)	佐々木酒造	
	お茶席 (参加費 500円)		

10月・11月は日本高齢者大会 in 京都の成功にむけたとりくみと併せて「日本高齢者人権宣言」の討議を一層すすめましょう

2022年9月27日

日本高齢期運動連絡会 事務局長 畑中久明

起草委員会より提案された「第3次草案」を今年5月の総会で確認して以降、各地で学習討議が取り組まれており、今後も予定している県連もあります。この間の討議の中で、「もっと討議するため決定を先延ばししてほしい」という意見、また草案の文言についての提案・意見も出されました。こうした意見について、日本高齢期運動連絡会は9月12日の代表委員・運営委員・事務局合同会議で検討しました。討議の中で、「宣言」の理解を深めるうえでも地域の要求運動に活かすこと、文言の修正にとらわれず、第1次草案から第3次草案まで多くの人の参加と起草委員会の検討で練り上げられてきた成果を確認して、今後の高齢期運動の旗印にしていくことが大事ということになりました。そして、12月10日国際人権デーに臨時総会を開き「日本高齢者人権宣言（第3次草案）」を「日本高齢者人権宣言」として決定する方針を決めました。

11月23日・24日には3年ぶりの現地開催となる日本高齢者大会 in 京都が開催されます。全体会・学習講座・分科会・移動分科会・交流会は今日の情勢にふさわしい魅力ある内容です。京都実行委員会は全国の仲間を歓迎しようと大会成功めざし準備に大奮闘しています。そして、各地では大会参加者の募集・確認が始まっています。10月～11月は京

都大会の成功にむけたとりくみと合わせて、「日本高齢者人権宣言」の討議を一層進めましょう。

参議院選挙の情勢は日本の政治の危機ともいえる事態になっています。安倍元首相の襲撃事件以来明らかになってきた、反社会的な活動が問題となっている旧統一協会と自民党の関係はいまだに全容を明らかにできない事態です。さらに自民党が関係を絶つとしている旧統一協会との関係が最も深かった安倍元首相の国葬を国会審議もせず、そして法的根拠もなく、強行する岸田政権に対して国民の怒りが沸騰しています。コロナ感染や物価急騰に対する無策さと相まって、内閣支持率は急速に下がっています。

しかし、諸物価が上がり国民生活が圧迫している中でも、10月1日には75歳医療費窓口2倍化を実施し、「全世代型社会保障」の名のもとに社会保障の解体をすすめていこうとしています。そうした情勢だからこそ、「日本高齢者人権宣言」の理念と目標をたかくかかげ、私たちの人権意識を高め、国に人権を保障させるたたかいを意気高く進めようではありませんか。

学習教材の「高齢期運動のブックレットNO. 5」と「高齢期運動のブックレットNO. 6」をお分けしますので、学習に活用してください。

日本高齢期連絡会まで連絡をください。

怒りの署名 834,878筆 75歳以上医療費窓口負担2倍化中止署名提出集会

本集会で24,867筆を提出

9月21日13:30から、参議院議員会館内で、75歳以上の医療費2倍化中止署名提出集会が開かれ、本日持ち寄られた署名24,867筆を提出。署名は累計834,878筆に達しました。

引き続き闘う決意

主催者あいさつに立った保険医団体連合会の住江さんは、困難な高齢者の生活実態をあげ、物価急騰の中で高齢者の医療費負担を増やすなど許せないと述べ、配当、内部留保を増やし続ける大企業にこそ負担をと訴えました。

日本高齢期運動連絡会の畑中さんが行動提起を行い、怒りの新宿デモ等への結集を訴えるとともに、社会保障の解体を許さず、引き続き人権としての社会保障を確立する闘いを進めることを呼びかけました。

全日本年金者組合板橋支部の大塚さん、全日本民主医療機関連合会の山本さん、日本高齢期運動連絡会の菅谷さん、神奈川社会保障推進協議会の根元さんがスピーチ。

中央社会保障推進協議会の林さんのリードで団結がんばろうを行いました。



(東京高齢期運動連絡会 【速報】 より)

9・25 怒りの新宿宣伝!!

物価急騰の中、75歳以上医療費窓口負担2倍化強行するな!!

9月25日(日)17時~18時 新宿駅東口で宣伝行動を実施「窓口負担はだれでもゼロがあたりまえ」「物価急騰下の強行はゆるせない」の声を大きく響かせました。2倍化反対署名が6筆、介護改悪反対署名が5筆集まりました。

各団体怒りのスピーチ

中央社会保障推進協議会の林さんが進行を担当。東京高齢期運動連絡会の菅谷さん、日本高齢期運動連絡会の吉岡さん、畑中さん、全

日本年金者組合の加藤さん、全日本民主医療機関連合会の山本さん、新生存権裁判の原告、全国保険医団体連合会の上所さんがマイクを取って訴えました。

2倍化は現役世代の家計も直撃

上所さんは、今回の改悪で同居する高齢の父母の医療費窓口負担が2倍化されるという方が署名に添えたメッセージを紹介、高齢者の負担増は、現役世代にとっても大きな打撃である

ことを訴えました。

知らなかったと署名する高齢者も

大きな横断幕は通る人の目を引き、対話が生
まれました。

通りかかった高齢の男性は横断幕を見て、患

者負担が 2 倍になることは知らなかったと話
して署名に応じ、宣伝が終わるまで手を振り、拍
手をして立ち去りませんでした。

(東京高齢期運動連絡会【速報】より)

「75 歳以上医療費窓口負担2割化」の実施に抗議し ひきつづき中止・撤回させるたたかいをすすめよう

2022 年 10 月 1 日

日本高齢期運動連絡会 事務局長 畑中久明

岸田内閣は 10 月 1 日に 75 歳以上医療費窓
口負担 2 割化を強行しました。コロナ禍、異
常な円安、そして 10 月より実に 6500 品目が
値上げされる、国民が疲弊している時に、追
い打ちをかけ「2 倍化」実施に断固抗議しま
す。

昨年の国会審議の中でも、「2 割負担導入
による現役世代の負担軽減効果」はわずか月
額約 30 円と、政府が理由にすることすら、そ
の根拠がないことは明らかです。そして、政
府は「健康悪化には結び付かない」と言うが、
高齢者への負担増は受診控えを招くことも、
各種調査で明らかです。

「2 倍化」の負担が大きいことから 3 年間
は外来の負担増の上限を 1 か月 3000 円とす
る「配慮措置」を行うとしていますが、「配
慮」する必要があると考えるのならば、この
物価高の中で、ただちに「中止」をするべき
です。しかし、国会審議を経ずに 2 割負担増
の対象者を政令によって広げることができ、
その狙いは明らかです。

コロナ禍で、ただでさえ高齢者の受診控え
が進んでいる中、窓口負担増はさらなる受診
抑制をまねき、高齢者のいのち、健康、人権
を脅かします。応能負担というならば、患者
の窓口負担に求めるのではなく、富裕層や大
企業の税・保険料負担に求めるべきです。

先進国では、医療費の窓口負担は無料が当
たり前です。75 歳以上医療費窓口負担 2 割化

は、高齢者の暮らしといのち、健康を守る上
で大きな影響を及ぼします。さらには、高齢
の親を支える子や孫といった現役世代の負
担にもつながります。

10 月 1 日に「2 割化」は実施されました
が、今後も高齢者のいのち・健康・人権を
脅かす 75 歳以上医療費窓口負担 2 割化の中
止・撤回させるたたかいを進めていきま
す。



10 月 1 日 怒りの新宿デモ

高齢期運動前進のために1つでも多くの地域連絡会を！ 7.29 「第18回静岡県高齢期運動連絡会総会」開催

静岡県高齢期運動連絡会



左から3番目が 塚平 新会長、4番目が 八木新 事務局長

静岡県高齢期運動連絡会第18回総会が、7月29日、ロッキーセンター大会議室(静岡)で加盟各団体の代表参加(16名)で行なわれました。

総会はまず杉山次郎会長から「今日の総会で退任するが、今の情勢をみれば退くわけにはいかず、これからも皆さんと一緒に要求実現のためにも頑張っていきたい」と挨拶がありました。

小高事務局長からの2021年度の活動のまとめ(案)と2022年度の方針(案)の報告を受けての討論では「人口の3割、4割をしめている高齢者の運動をもっと大きくしていかななくてはならない」「後期高齢者医療制度の改善を窓口負担だけでなく保険料の問題も」「高齢期2割中止の運動を最後まで」「県連絡会が情報を集め、県にも資料を出させて交渉していくことが重要」などの発言がありました。

また掛川、磐田、富士宮、浜松の補聴器購入助成運動の取り組みの報告があり、その他掛川生健会からは医療費の限度額減額認定証を後期高齢者も含めて、国民健康保険の被保険者を中心に今年も80人の認定証の申請をして、その内所得がある程度ある方と扶養家族になっている方等で20人減らされたが、60人が認定証を受け取ることができ、さらに申請した人に委任

状をつくっている」と報告がありました。

新たに塚平会長、八木事務局長を選出！役員選出では新会長に年金者組合県本部委員長の塚平勝司さんを事務局長に、新事務局長に元県評事務局長の八木澄人さんを選出しました。また閉会挨拶では土屋幹事から「皆さんが住んでいる地域でも高齢者運動連絡会をつくって運動に踏み出そう」と訴えがありました。

〈新役員・事務局体制〉

会長 塚平勝司(年金者組合)

副会長 服部憲幸(民医連)

事務局長 八木澄人(年金者組合)

事務局次長 岡村雄馬(年金者組合)

事務局次長 小高賢治(民医連)

財政担当 小田巻陽一(年金者組合)

幹事 土屋義久(富士地域高齢期を考える懇談会)

幹事 田中嶋直子(新婦人)

幹事 介護・医療と社会保障を考える市民の会

〈浜松〉

幹事 静岡県生活と健康を守る会

会計監査 自治労連

※団体名のところは各団体で選出

(「県高齢期運動連絡会ニュース」No.1号より)

オンライン&ハイブリッド方式で 4年ぶりに「第32回福島県高齢者大会」を開催 240人が本田宏氏の記念講演に聞き入る

福島県高齢期運動連絡会

コロナ感染“第7波”の猛威で福島県内でも一時3,000人を上まわる状況もありましたが、開催方部となった二本松・安達の皆さんの尽力で、第31回の喜多方市での県大会以来4年ぶり、磐梯熱海での第33回日本大会以来3年ぶりに第32回福島県高齢者大会を去る9月3日、二本松市で無事開催できました。

メイン会場の二本松市福祉センターには72人が参加するとともに、福島で42人、会津で40人、白河で32人などオンラインで結んだ県内7方部の会場に総勢240人が参加。「ウクライナ戦争で我が国の医療社会保障はどうなる」とのテーマで、時に駄洒落と冗句を交えて笑いを誘いながら、デンマーク、ドイツ等の諸外国に比べて貧弱な医療、教育、社会保障の日本の実態を浮き彫りにしたDr.本田宏氏の記念講演に熱心に聞き入りました。

「豊富な資料に基づくわかりやすい講演でとても参考になった」「本田先生を呼んでまた聞きたい」「日本は人づくりどころか、官僚の国。税金の使い方のわからない国であるをつくづく考えさせられた」「今日の大会に参加できて得をした気持ちです。若い人にも声をかけて本田先生のお話を聞く機会を計画してほしい」「大変たのしく意義ある講演で元気をいただき、高齢者大会の大切さをあらためてかみしめました」等々、たくさん感想が寄せられました。

大会には、三保恵一・二本松市長が来賓として出席し、歓迎と激励あいさつ。また、立憲民主党の金子恵美衆院議員、馬場雄基衆院議員、日本共産党の岩淵友参院議員、本宮市長、大玉村長らがメッセージを寄せました。



高齢期運動の今後活動報告に立った橋本憲幸県高齢期運動連絡会事務局局長から、今大会のしおりから、これまで掲載してきた日本高齢者憲章にかわり、この間学習論議されてきた日本高齢者人権宣言(第三次草案)を載せたことを紹介。今後の高齢期運動の理念、旗印、目標にしていくもので「大いに学び合い、高齢期を堂々と生きていく糧にしていきたいと思います」と呼びかけました。

大会では、「長寿を共に喜び合える社会」づくりへの決意をうたった大会宣言と安倍元首相の国葬に反対する特別決議を皆で採択しました。

なお、大会費用の確保にかかわって、コロナのためこの3年大会開催を見合わせてきたことから、大会しおり掲載の協賛広告は集まらないのではと心配されましたが、県内各方部連絡会の奮闘で3年前を上まわる142件の広告が寄せられ、大会成功に財政的にも寄与いただきました。感謝申し上げます。(記 橋本)